



センター通信

〒 123-0873 東京都足立区扇 1-12-20
TEL (03)3856-2728 FAX (03)5939-7880
URL www.wfc.or.jp

社会福祉法人と公益事業

社会福祉法の改正に伴い、社会福祉法人も地域貢献事業を行うようにと提唱されております。各法人の持つ力で独自の取り組みを行うと言う事で、当法人としては、昨年の8月より毎月第1金曜日にボランティアの方と共に、皆様から頂いた寄付物品を安価に提供する事を始めました。近隣の方が自転車や徒歩で見えて、お買い物もさることながら、話し相手の少ないお年を重ねた方々にとってはお喋りの場ともなり、楽しそうに過ごされる姿も見られ、喜んでおります。

また、前回のセンター通信でもお知らせ致しましたが、社会福祉法人クリスト・ロア会様と協働で山中湖林間寮の運営という公益事業も本格的に始めました。1法人では運営が困難ながら、法人同士が一緒になって1つの事業を行うという新しい試みです。土地・建物はクリスト・ロア会様ですが、協働して運営を行う為に、連絡を密に取り合い、定期的に会合を開いて改善点等を

お互いに出し合い、情報を共有しております。夏場はバーベキューやテントを張って野外に泊まることもできますし、満天の星を眺めたり、栗拾いやたき火など都会では味わえない体験もできます。富士五湖の花火大会の時には、徒歩でも行くことができる湖畔まで下りれば、メイン会場のみならず、他の2箇所でも同時に上がる花火を楽しむこともできます。基本的に1棟を貸切のためマイペースで過ごせ、お子様連れの家族にも喜ばれています。職員研修の際には、広い講堂や食堂でスライド上映も可能で、ログハウスでの泊まりは、お互いの交流を深めるにも最適です。少しでも多くの方に利用して頂けるようにと今後も両法人でアイデアを出し合い、協働作業を行って行かれるように努めて参りますので、よろしくお願い致します。

理事長 荒船 旦子

◇◇◇◇◇ 山中湖林間寮を利用したの宿泊研修 ◇◇◇◇◇

9月27、28日の1泊2日で山中湖林間寮を利用したの宿泊研修をおこないました。法人による宿泊研修は今回で9回目を数えます。今年度から立ち上がったばかりの人材育成委員会ではありますが、委員会のスローガンを「夢・目標・チームワーク」と定め、今年度の委員会研修を実施しております。

法人宿泊研修は、これまで積み重ねた研修の経験を踏まえ、プログラムを一部見直し、開催地も初めて山中湖林間寮で実施しました。宿泊研修参加者は総勢30名でしたが、コテージ一棟で全員が宿泊することが出来たため、バーベキューをしながらの夕食交流会では、お互い初顔合わせの職員同士が直ぐに打ち解け、火を眺めたり、星を眺めたり、夜遅くまで語り合い、深まりゆく秋を感じながら、職員同士も交流を深めておりました。

1日目の研修は創始者長谷場夏雄の実績をスライドで学び、青少年福祉センターの成り立ち、理念を改めて確認し、職員として共通認識を持つことを目的としました。2日目の研修は、現在事業所長を務めている清周寮の黒川寮長、あけの星学園の石丸園長の入職から現在ま

でをスライドと対談形式で聞いてもらい、その後参加職員からの質問に答えました。今回研修に参加した職員は、法人の成り立ち、創始者の長谷場夏雄の思い、そしてある職員の実践を一つの職員モデルとして学ぶ機会となりました。次世代を担う職員には、今後どのようにこの職を務めて行くのか考える機会として欲しいと思います。



山中湖林間寮はクリスト・ロア会と青少年福祉センターの、2法人で協働運営しておりますが、この度宿泊研修を無事に終了することが出来たことについて、関係者の方々に厚くお礼申し上げると共に、特に当法人職員のため、夕食と朝食の準備をはじめ細やかな対応をして下さいましたクリスト・ロア会の小林様に、この場を借り改めてお礼申し上げます。

人材育成委員長 石丸 正史

山中湖林間寮のご紹介

平成 29 年度より社会福祉法人クリスト・ロア会とともに、山中湖林間寮の運営に携わっております。山中湖へは徒歩 2 分程度の距離で、広大な敷地にログハウスが 4 つ、キャンプや BBQ が出来たりと自然を満喫でき

る施設となっております。青少年に関わる公益的な活動を行っている団体の方でしたら、利用が可能ですので、ぜひご利用ください。施設概要や利用料金など、詳しくはホームページにてご確認ください。

山中林間寮 全体見取り図



アクセス

山梨県南都留郡山中湖村山中 248-1



詳しくは、

山中湖林間寮

検索

近 況 報 告

児童養護施設 暁星学園のようす (定員 男女 36名)

児童自立支援施設に入所する児童のなかには、児童養護施設で問題を起こし、施設不調となって入所する児童もいます。そして、当学園には、その児童自立支援施設を退所して、高校入学と同時に入所してくる児童がいます。

K君は、乳児院→養育家庭→児童養護施設→児童自立支援施設を経て学園に入所しました。生活の場が安定しない状況で入所してきましたので、入所後は本人自身も不安定な状態でした。本人が不安定な状態なので、高校にも通えず仕事もできず、施設の中で毎日何かしらの問題を起こして過ごしていました。高校を変更したり、仕事の体験をしたりしましたが、施設内でできる支援にも限界があり、最終的には高校を退学し、アルバイト就労をして自立しました。退所後はアパートで一人暮らしをして生活していましたが、アルバイトは継続できず定職につかずに過ごしていました。アフターケアでK君と会って話をしたり、K君が学園を訪ねて来たりしたことはありましたが、特に支援することもなく数年経過しました。家が近いこともあり、むしろ以前在籍していた施設の方との交流が多かったそうです。そんなK君は、今年の1月に20歳になり、法人の成人式に招待しました。その後K君から海外に行きたいとの相談がありました。K君からの自発的な提案はほとんどなかったのですが、話を聞いたときは半信半疑でしたが、パスポート取得や航空券の購入など、K君の行動を見て、確信に変わりました。

現在、K君はカナダにいます。ホームステイ先で生活し、英語の勉強をしているそうです。時間はかかりましたが、K君自身が決めたことをようやく始めることができました。そして、暁星学園を退所して4年経過したK君の成長を感じました。



児童養護施設 あけの星学園のようす (定員 男女 20名)

今年は記録的な猛暑が続き、秋の訪れが恋しい毎日でしたが、立冬を過ぎてやっと秋を感じるようになりました。あけの星学園では、冬休みに1泊2日でディズニーランドを満喫する行事を計画しており、子ども達も楽しみにしています。

今年も10月28日にハロウィンパーティを行い、園内を手作りの飾りでいっぱいにして、気分を盛り上げました。当日は、調理実習を兼ねて職員と一緒にお菓子やパイを作り、パーティでも出し物を披露するなど、子ども達が大活躍の一日でした。職員も、全力の仮装姿で場を盛り上げています。こでまりホームでは、子ども達からリクエストメニューを募り、調理員が腕を振るったかぼちゃ尽くしと和牛ステーキが振る舞われ、子どもも職員も大満足のパーティでした。

今年も残りわずかとなりました。来年3月に高校を卒業する子どもはいませんが、高校受験を控えている子ども達もいます。これから、クリスマスやお正月など、楽しいイベントが続きますが、職員一同気を引き締めて支援していきたいと思えます。

児童養護施設は、その施設を利用する子ども達に対し、入所中だけでなく、退所した後も相談や支援を行うことを目的として存在しています。今年、何年も前に園を退所した子が結婚式を挙げることになり、職員が招待されました。あけの星学園の職員が、退所者の結婚式に招かれるのは初めてのことです。学園に顔を見せてくれるたびに、話すことや振る舞いが立派な大人になったと楽しみみしていましたが、特別な日の晴れ姿を間近に見ることができて、感慨深い思いでいっぱいになりました。

今後も、職員が子ども達の良い手本になれるよう、研鑽を続けてまいります。



自立援助ホーム 長谷場新宿寮のようす (定員 男女 15名)

暑い夏を乗り越え、寒い冬も乗り越える。長谷場新宿寮の寮生は今年度も邁進しております。今年のラスト、平成のラストを例年通りの元気とガッツで乗り越えます。

長谷場新宿寮では約束事として、フルタイムでの就労を掲げております。10代の若者には厳しい条件かもしれませんが、自身の目指す自立を考えながら、就労や求職活動に打ち込んでおります。

そんな寮生たちの為にも行事に力を入れ、余暇の充実を常に図っております。夏には、埼玉県秩父でのスポーツ行事で汗を流し、群馬県利根郡みなかみ町への1泊2日の旅行では、大自然での運動や食事、温泉を堪能しながらリフレッシュを行いました。相互の交流も深めより良い雰囲気になっております。その結果、月1回での寮生ミーティングにはほとんどの寮生が出席し、活発な意見交換の場を実現することができました。このような空間が作れることに、長谷場新宿寮の誇りを感じております。

今年度も年2回の権利擁護研修を行いました。苦情解決第三者委員の先生方のご助力の下、前年度以上に力が入った研修となりました。自立後の金銭的なトラブルや詐欺の手口についても学び、東京都で特に多いオレオレ詐欺への加担にも皆で気を付けるように共有をしました。

これから年末に差し掛かりますが、11月にはOB会、12月にはクリスマス会や忘年会、1月には創立から続く伝統行事である正月の家を予定しております。季節の行事を大切に楽しみながら今年も良い1年で締めくりたいと願っております。

来年もより良い1年になるように、「皆で作る長谷場新宿寮」を目標に長谷場新宿寮一同、これから先も精進して参ります。



自立援助ホーム 清周寮のようす (定員 女子 15名)

11月1日現在清周寮には13名の女子児童が生活しています。約半数の8名が学校と仕事の両立をしながら自分の生活を送っています。大学生が1名、専門学生2名、高校生が5名在籍しています。大学生は来春3月に卒寮予定で、足立区貧困対策課の事業の一貫である区営住宅に申請する予定となっております。低家賃で借りられる為、学生にとっては心強い事業となっております。現在足立区貧困対策課とは連携を強化しています。例えば足立の里を紹介して頂き、野菜の寄附を週3回頂いています。また近隣のお豆腐屋さんを紹介して頂き毎週手作りの美味しいお豆腐等も頂いています。清周寮にとっては食材を頂けるのは毎日生活していくうえで助かっています。また保健師さんと連携を取り寮生ミーティングで学習会を開催する予定もあります。何かと気を使って頂き本当に感謝している次第です。

10月には寮の行事で山中湖林間寮を利用した富士急ハイランドツアーを執行致しました。1日目は、アスレチックに挑戦しました。子ども達は行く前、大したことないと思っていたようですが、挑戦してみて本格的なアスレチックだったようで次の日には筋肉痛で大変だったようです。夜はあいにくの雨だったのですが、自然に囲まれた中に立つログハウスのデッキでBBQをして、おいしい空気とお肉を沢山食べる事が出来ました。2日目は富士急ハイランドに行き絶叫マシンに乗り、大声で叫び日頃のストレスを発散していました。2日間参加した児童はとっても楽しかった、また山中湖林間寮を利用したいと全員が一致した意見を言ってくれたので企画した職員は満足していました。来年もまた遊びに行きたいと考えています。



自立援助ホームおうぎ寮のようす (定員 男女6名)

日に日に寒さがますます時期になりましたが、子ども達は目標に向かい元気に自立をしていきます。今年度は既に3名の子ども達がおうぎ寮を離れ、新しい生活をスタートさせました。実際社会にでてみると分からない事や苦戦する事も多々あります。そんな時はきちんと相談してくるよう在寮中より繰り返し伝えており、退所した子ども達をサポートすることも重要な仕事のひとつとなっています。

その為、おうぎ寮では昨年度より退所者支援の方法を見直し、計画的に支援する取り組みを行っており、積極的にアプローチをし、支援を必要としている退所者の抜け落ちを防いでいます。

そうした中、一人の退所者と外食することになりました。在寮中は傍若無人のかまってちゃん怪獣で、甘えを暴言という形で出す当時18歳の男の子です。幾度と無く手を焼かされました。そんな彼が自立をし、もう約2年が経ちます。ちゃんと生活できているか私達の心配をよそに、仕事ではリーダー的な役割を担いながら責任を持って働いており、休日には掃除や自炊を行ない、作り置きまでしているといった立派に成長した姿をみせてくれました。また、職場の仲間には自身の駄目な部分や甘えを出せており、周りも受け入れてくれていると楽しそうに話してくれました。彼の孤独や儂さを知っている分、素直に自分自身をだせる居場所を見つけ、安定した生活を送ってくれていることは私達にとってとても嬉しい報告です。

こうした子ども達の幸せな姿に出会う度、この仕事の遣り甲斐を実感させられます。彼らの人生がこの先も続いていくのと同様、退所者支援に終わりはありません。これから先も拒否されない限り、ずっと見守り続けていきたいと思えます。



♪チャリティーコンサート♪



9月11日(火) 国立近代美術館に於いて、千代田キワニスクラブとの共催で、Live at MOMA チャリティーコンサートをバイオリニスト小林美樹様にご協力を頂き、養護施設出身者自立支援の為に銘打って開催致しました。現館長は音楽にも造詣の深い方で、美術館の地下ホールを使って、コンサートを開催し、美術館に足を運んで下さる方を増やしていきたい。については、純益は開催者に差し上げるので、企画をして頂けないかと言うお話が当時の千代田キワニスクラブの代表に持ち込まれたことにより実現しました。幸いなことに当該クラブは、自立援助ホームの関係で大学や専門学校に働きながら通学している子どもに、在学中生活費を毎月援助をすると言う事業をされている上、私も個人的に親しくして頂いている方ですので直ぐに連絡を下さり、両団体で行うということが決まりました。企画から開催日まで2ヶ月余という短期間でしたが、チラシの作成、入場券の印刷、販売を手分けをして行い当日を迎えました。

特別展についてのご説明を受けた後、館長と小林様が対談をされて、通常のコンサートとは、ひと味違い参加された方々にも大好評でした。私自身、久しぶりにクラシックを聴きながら、1年に1回でも良いからこの様な時間を子育て等で疲れている方が持てれば、虐待に走らずに済むのではないかなと思えた数時間でした。

このような企画を、今後は数ヶ月に1回の割合で開催したいという有り難い思召しで、いつかは、施設の子ども達も参加できるような企画を考えられたらと思っております。このような企画を考えて下さった館長様や千代田キワニスクラブの皆様へ改めて感謝申し上げます。

秋晴れのお墓参り

去る10月2日、4名の子ども達が眠る流山にある当法人墓地のお墓参りを行ないました。丁度この直前あの日本列島を横断した大型台風が襲来し、参列を希望されていた御家族の方が、その影響で参列できないというハプニングがありました。しかし、その御家族の気持ちが届いたかのように台風一過で空がきれいな秋晴れの日となりました。この日来る事が出来なかった方たちもいつでもここに来て、故人を偲ぶことができます。今年も既にお盆や命日に、御家族やその子と共に歩んだ方々が、お参りしてくださっています。私もそれぞれ4名の子どもたちの人生に想いを馳せ、今はゆったりとこの地から私たちを見守っていて欲しいと思います。



小説「光の人」発売

長谷場夏雄をモデルにした小説「光の人」が9月28日発売されました。著者は、NHK「プロジェクトX」元プロデューサーの今井彰氏。今井氏は、パーソナリティをつとめるラジオ番組で長谷場に出会いました。その生き方に心を打たれた今井氏は以来、取材を重ね資料を集め、今回書き下ろし小説として結実させました。1,000人の孤児たちの命と未来を守り抜いた男の感動巨編となっております。文藝春秋より全国の書店で発売されておりますので、ぜひお買い求めください。



編集後記

11月10日(土) 扇バザーが晴天の下、開催されました。チケット売場の前にはオープン1時間も前から多数の子供が集まっていて、“まだ入れないの”、“ゲームチケットを売ってよ”と言う可愛い催促が飛び交っていました。開場時間になった途端、彼らが一目散にゲームコーナー、食品コーナーに向かって行く後ろ姿が見られました。来場者数

は前回より少なかったものの、物品の販売数は反対に上回ったと報告されています。このような状況は、ボランティアの方々の御協力によって支えられていることも実感しました。バザーに参加して、近隣の方々に喜んでいただいている光景を見ると、改めてバザーの意義を考えさせられました。(野本)

